

若者の居場所から立ち上げるパン屋事業 若者の苦悩を仕事に結ぶ

佐藤洋作

NPO文化学習協同
ネットワーク

社会から引きこもる若者たちに

社会の入り口で立ちすくんでいる若者たちの苦悩は深い。今日では、いわゆる ひきこもり の若者の外延は広がり、学ぶことにも働くことにも踏み出せない若者層（NEET）が激増している。自分は社会に受け入れられないのではないか、職場の人間関係がうまくいかないのではないかといった 自己への不安 に浸され、優勝劣敗の社会イメージに圧倒され、求職活動そのものを回避している若者たちである。一人前に育てられる時間も与えられないまま 即戦力 であることが要請され、使い捨て労働力 として若年労働が周辺化されていく限り、若者たちはますます現実からひきこもらざるをえないだろう。彼ら／彼女らに、協同で働く新しい働き方を通して、自分を生かす豊かな働き方とライフイメージを提供していくことの意義は大きい。

協同のちからでつくる地域に開かれたパン屋

社会参加・自己実現の場としての地域密着型の仕事場づくりは、地域コミュニティの新しいネットワーク化を促進し、そこに参加する若者に豊かな学習と就労の機会を提供していくことになるだろう。私たちのNPOが立ち上げたコミュニティ・ベーカーリー「風のすみか」は、地域がつながり、若者たちが育つ、そうした教育力を持った仕事場として構想されている。屋号「風のすみか」は、隣接するジブリ美術館と若者の居場所のイメージを重ねて、若者自身が名付けたものである。

障害者の自立支援施設のスローワーク（パン事業）を一つのモデルに、プロジェクトが開始されて二年ほどが過ぎた。パン屋訪問やパンづくり実習などワークショップも重ね、パン好きな市民の参加も広がってきた。福祉事業をサポートする大手パン企業の支援も仰いだり、天然酵母一筋のこだわりパン屋さんに若いスタッフのインターンを受け入れてもらった。この6月には、市民の方々の出資金（融資）で工房が立ち上げられ、それ以後パン職人さんを招き、若いスタッフとボランティアの父母や市民の方たちがパンづくり研修を

続けてきた。試作パンを多くの市民のモニターに試食してもらいながら商品開発も進んできた。自分たちで育てた農産物を素材にしたパンを商品化したり、地域通貨で流通する市民参加型の食システムづくりにも着手している。

よい働き方 を求めて

ひきこもり経験のある若者たちは、地域やイベント会場で展開してきたワンディショップ(出店)のスタッフとして生き生きと働いてきた。自分たちの商品が受けいれられ完売した時の喜びは大きかった。この間、父母市民に混じってパンづくり研修に参加する若者もあられ、オープン以後のスタッフメンバーも調い始めた。食べ物作りそのものに惹かれていたもの、仲間との協同のあり方に安心感を覚えるもの、若者支援のあり方に共感するものと参加への動機はいろいろだが、自分の存在が否定されることのない働き場であることへの願いは共通している。失敗しながら成長していける職場、自分の働きが自分たちの仕事全体に反映していることが実感できる職場、そして地域の人々の顔の見える職場をめざして、まずはこの秋、コミュニティ・ベーカリー「風のすみか」はオープンする。はたして、若者たちのスローな働き方によってパン屋経営は成立するのか、若者たちに働く喜びと自信を喚起する働き方を作り出せるのか、不安は残したままである。しかしながら、よい働き方とは、その追求のプロセスそのものの中に生まれていくものであることを信じて出発するしかない。

OPEN!

風のすみかのパンは、天然酵母を使っています。添加物(保存料など)を使っていません。商品にアレルギー成分の表示をしています。自分たちが栽培した作物を材料に使っています。

9月25日(土) 11:00

9月22日(水)、23日(木)に、プレオープンします。ぜひお越しください。
9月29-26日は、先着10名様限定の試食会を開催いたします。
また、9月25日(土)は、試食スペースをご用意しております。お越し下さい。
9月27-28日は、定休日のためお休みさせていただきます。

コミュニティ・ベーカリー
風のすみか
WINDY MUKA
Bakery

実施時間 11:00~18:00 定休 月・火
〒181-8612 三鷹市下連井1-14-3 大正学園南センター1F 0422-47-8706
9月20日以降は、0422-49-0486にお電話ください